

平成29年度 学校自己評価システムシート(埼玉県立羽生高等学校)(案)

目指す学校像	不登校等の課題を抱えた生徒の基礎学力・集団生活力を養い、社会的自立を実現するとともに地域の生涯学習機関として貢献できる学校
--------	---------------------------------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒個々の能力や適性を把握し、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の定着に努める。 2 生徒の進路意識を高めさせ、進路実現を促す指導を推進する。 3 生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。 4 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実にも努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	
番号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度
1	生徒の基礎学力や学習意欲に差があり、保護者のニーズも多様化している。生徒に本校で学ぶ意義を再確認させ、日々の学習意欲に繋げることが、必要である。また、履修条件を明確化する	授業改善による生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着	<ol style="list-style-type: none"> ①授業力向上研修会や研究授業の実施により、アクティブラーニングの授業実践等授業改善に取り組む。 ②日本語を母国語としない生徒等多様な生徒に対応するため、さらに授業のユニバーサルデザイン化を行う。 ③基礎学力向上補習の取組を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①7月及び12月の生徒アンケート結果で、次の2項目の肯定的評価率を向上させることができたか。 ア 授業がわかりやすいか。 イ 指導方法に工夫はあるか。 ②授業のユニバーサルデザイン化を進めることができたか。また、授業内容の理解度が向上したか。 ③参加生徒数と取組状況を向上させることができたか。 		
		評価と履修指導についての工夫・改善と次期教育課程の検討	<ol style="list-style-type: none"> ①単位制の特色がよくわかる受講の手引きを作成し、履修指導を行う。 ②評価の工夫・改善に取り組む。 ③教育課程委員会で次期教育課程を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①わかりやすい受講の手引きが作成できたか。また、履修指導の工夫改善を実施し、生徒の単位修得状況が向上したか。 ②授業内容と評価の一体化が図れ、妥当性と信頼性のある評価ができたか。 ③本校の特色を取り入れた教育課程が検討できたか。 		
2	生徒の社会性を養うとともに、多方面からの取組により進路意識をさらに高揚させる必要がある。また、進路に関する情報や就学奨励費などの経済面に関する情報を周知する必要がある。	進路意識の向上と社会性の育成による進路実現	<ol style="list-style-type: none"> ①就職支援アドバイザーを活用した取組や外部の教育力を活用した模擬授業及び進路講演会などの進路行事を実施する。 ②進路に関する必要な情報を効果的に生徒・保護者に提供する。 ③バイタリー情報、高等技術専門校、奨学金制度や就学奨励費の活用など、経済的な支援に関する情報提供を適時適切に行う。 ④部活動、生徒会活動を活性化するとともに、アルバイトの推奨等により生徒の社会的な生活能力を育成する。 ⑤各種検定試験を積極的に実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒アンケート結果から学校行事に対する意識の高揚が認められたか。 ②適時適切な情報提供ができたか。 ③経済的な準備に対する意識を啓発することで、学校生活への意欲を向上し進路実現に結びつけることができたか。 ④部活動、生徒会活動、アルバイト経験を進路実現に結びつけさせることができたか。 ⑤検定受検者数を増やすことができたか。 		
3	不登校生徒や社会性に課題を有する生徒が多く在籍している。SC、SSWや学習支援員との連携の強化と効果的な支援の拡充のため、さらに工夫・改善を行う必要がある。	教育相談を活用した支援の充実とコミュニケーション能力の向上	<ol style="list-style-type: none"> ①中学校等とも連携し、生徒面談や保護者面談等を実施する。 ②スクールカウンセラー(以後SCと表記する)、スクールソーシャルワーカー(以後SSWと表記する)、学習支援員と連携し、一人ひとりの課題解決に向けた支援を行う。 ③特別支援教育コーディネーターや専門家による特別支援教育に関する研修会を定期的に行う。 ④学校設定科目「コミュニケーションⅠ」、ソーシャルスキルトレーニング(以後SSTと表記する。)を活かし、対人関係構築の取組を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①指導に役立つ情報収集を実施し、面談の工夫や実施回数が増やすことができたか。 ②生徒が課題解決に向けて意欲を示すような支援ができたか。 ③特別支援教育の視点に立ち、継続的、効果的な支援をすることができたか。 ④生徒が良好な対人関係を構築することができたか。 		
	引き続き社会性を育む教育を充実させる必要がある。	社会性やマナーを育む啓発的な生徒指導の推進	<ol style="list-style-type: none"> ①挨拶の励行や朝の声掛け巡回指導を継続する。 ②問題行動やいじめ等の未然防止と早期発見のために、校外巡回指導や面談などを実施する。 ③社会性やマナーを育むため、関係機関と連携し規範意識の向上に取り組む。 	<ol style="list-style-type: none"> ①計画的、継続的な指導により、生徒の規範意識が高まったか。 ②問題行動防止やいじめ防止に対して啓発的な指導ができたか。 ③生徒が積極的に学校生活へ取り組んでいるか。また、関係機関との連携した取組が行えたか。 		
4	県民・地域の方や中学校に本校の特色ある教育活動を組織的にアピールする必要がある。	多様な情報の提供	<ol style="list-style-type: none"> ①組織的にHPの更新ができる体制を整え、教育活動を適時・適切な情報発信を行う。 ②地域、近隣住民へ市報、回覧等により情報発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①更新数とアクセス数が増加したか。 ②教育活動の状況やその他の学校情報を発信することができたか。 		
	本校は地域の生涯学習機関である。さらに事業内容を充実させるとともに、広報を工夫する必要がある。	生涯学習機関として地域に開かれた学校づくりの推進	<ol style="list-style-type: none"> ①特別講座、科目履修、学校公開講座を充実させる。 ②学校評価懇話会の意見や助言を実現性から分類し教育活動に活かす。 ③地域と連携した取組を実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①開講講座数、受講者数を増加させることができたか。 ②実現性の高い意見の即時対応、低い意見に対する取組の検討ができたか。 ③生徒会を中心とした地域行事への参加やボランティア活動を充実させることができたか。 		

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 : 平 成 3 0 年 月 日	
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	